

令和元年度 第1回 京都市次代の左京まちづくり会議 摘録

【日 時】 令和元年9月3日（火）午後1時30分～3時40分

【場 所】 左京区総合庁舎1階 大会議室B

【出席者】 ○委員 16名 《欠席者2名》

○左京区役所 9名

【内 容】

1 開会

2 委員及び行政側出席者の紹介，副座長の選任

3 内容

（1）「左京はあとふるプラン（左京区基本計画第2期）」総括及び次期区基本計画策定について

- ・ 事務局から説明
- ・ 意見交換

● 地域の居場所づくりについて

＜委員＞ 下鴨学区には児童館がないため，次の5年の中で日を当ててもらいたい。また，独居の老人や高齢者，放課後の子ども，そして地域の子どもやお母さんたちの居場所を考えたい。

＜委員＞ 養正学区と錦林東山学区では，他学区と比べて突出して高齢化率が高い。地域住民はそれを理解しており，高齢者の居場所を自ら作りたいという話や動きがある。高齢者の増加や厳しい行政予算を考えると，行政が民間のNPOや市民活動と連携してまちづくりに取り組む方向を示してはどうか。

＜委員＞ 社会福祉の現場では，その人たちがいる空間を「居場所」と呼んでいる。左京区にはお寺やお庭などの居場所になり得る空間も多く，そうしたところに認知症の人などがありのままでいられる場所を作っていくと良い。

地域共生社会というが，「異質共生」が必要だ。障害や高齢，性別等，お互いの違いを理解し，それぞれの人が安心して過ごしていけることが大切だ。

＜委員＞ 障害者の中には若い人も多く，居場所があるだけでは障害者は持続的な生活ができない。障害者が働ける場所が大事だと考えている。地域における障害者に対する理解が少ない中，小さい頃から障害者への理解を深める教育ができれば，その後の就労支援にもつながるだろう。

＜委員＞ 障害者の居場所づくりについて，左京こころのふれあいネットワーク「心ときめき芸術祭」を開催しており，是非知ってもらい

たい。

放課後の子どもの居場所について、祖父母に憧れる子どもたちと定年退職した方が交わる放課後まなび教室等の取組があるので、多くの定年退職者に是非参加してもらいたい。

●伝統文化等の継承について

<委員> 高齢化が急速に進む中、伝統行事の継承が難しくなっている。広河原・花脊の松上げのための材料調達や担い手の育成など、課題は大きい。

<委員> 五山の送り火の準備では、2,000人くらいが支えている。しかし、20代はおらず、30代～40代は地域活動に関わるのは非現実的である。定年退職した60代～80代が中心だが、地域活動に無関心の人も多い。学生等、若い人が一時的にボランティアで関わるだけでは不十分である。

<委員> ボランティアが少ない点について、大学にボランティアサークルがある等、ボランティアに関心がある学生は多い。今日のような会議に学生やボランティアサークルの方が参加してくれたら、地域団体と連携できそうだ。

<副座長> 担い手に関して、別に区民に拘る必要はない。動員されると続かないため、他の地域からその時だけ、関心ある人を巻き込みながら取り組めば良い。

<委員> チマキザサは左京区北部に自生しているが、例えば花脊でチマキザサを再生するなら、広河原のスキー場にも植樹してはどうか。

<座長> 京都市未来まちづくり100人委員会で考えたチマキザサ再生プロジェクトを、左京区が受け継ぎ、現行計画の中で継承している。五山の送り火では、松ヶ崎が5年前に財団法人化し、大文字も一足先に財団法人化している。地域の行事から、助成金を受けられる法人へ移行している。

<委員> 京都のお祭りは平日でも行われるため、学校に通う子どもたちが参加できない。また、祇園祭のお稚児さん等として参加する子どもは、祭事を理由に学校を欠席できなくなっている。そのような状態では、伝統行事の担い手はますますいなくなるだろう。

<委員> 五山の送り火の課題や、人とのつながりの必要性について、小学生だけでなく中学生にも伝えていきたい。例えば大学の先生を中学校に招いて、伝統行事を教えてもらうなどの機会があるとよい。

<委員> これからの子どもたちには、伝統文化が自然の大きな力、また偉大な自然を背景に成り立っており、これらの維持が困難な状況であることを伝えてないといけない。

●高齢化や子育てを支える地域連携について

- <座長> 左京区では学生が多く住んでいるが、一方で高齢化率も高く、人口から学生数を除くと、人口構成が（市内で最も高齢化率の高い）東山区に近づいてくる。
- <委員> 地域活動を支えるボランティアは高齢化が進んでおり、行政の支援が必要だ。
- <委員> 大原では、野生動物により農業被害を受け、高齢農家の農業意欲を失わせている。一方、子どもたちは畑の虫や草に触れる経験が少なく、そのような機会を提供したい。
- <座長> 子育ては、これまでは親の責任と言われてきたが、地域・企業・行政・その他の人の関わり方を考える必要がある。また、地域で子育て環境を作っていこうと考える中で、学生の参加の形も考えたい。
- <委員> 学生は日常的に地域活動に参加することは難しい。行事やプロジェクトを通じて学生を巻き込み、地域といかに接点を作り、連携していくかが大事だ。
- <座長> 民間の力で健康寿命を伸ばす取組が広がっている。例えばアスリートがセカンドライフとして、ちびっこ広場などでご高齢の方とリハビリなどに取り組んでいる。アスリートは不自由になった足をどうすれば良いかも知っている。
- <委員> P T Aの活動とまちづくりの活動が重なっていることを理解した。左京区でもP T A活動とまちづくり活動を一緒にできれば良い。
- <委員> 文化芸術や歴史文化等を活用し、教育やまちづくりに取り組むことが大切だ。

●北部山間地域について

- <委員> 昨年度の台風により、花脊峠の風景が一変した。被災が大きい中、花脊では60歳代を中心として地域有志が花脊振興協議会を立ち上げ、左京区まちづくり活動支援交付金を取得し、まちづくりに取り組んでいる。一昨年から京都丹波高原国定公園に指定された。花脊峠の山桜、日本一背の高い杉の木と認定された花脊の三本杉を観光資源にしたい。
- <委員> 左京北部は観光振興にも取り組んでおり、美山荘はテレビで特集されている。
- <委員> 左京北部のことを知らない人が多い。地域のことを知る機会が大事だ。

●次期基本計画の策定について

- <委員> 次期基本計画の計画期間は5年間ということだが、取り組む

課題が多いのではないか。環境や文化等、もっとテーマを絞って、結果に結び付けないといけない。

<委員> テーマの絞り方については、委員間でコミュニケーションを公開しながら実施しても良い。また、基本計画のテーマを絞る一方で、少数派に関わる課題の声に耳を傾けることも大切だ。

<副座長> 課題の設定は、量を絞るよりも、打ちやすいところから絞る視点も大切だ。段階的にその問題を「知りましょう」、「関わりましょう」から始めた方が良い。

<委員> 左京区は面積が広いため、空間として捉えていくことが大切だ。都市部と中山間地域などをトータルに捉えることで、左京区としてのストーリーができるのではないか。

<委員> 地場の企業が消防団や伝統行事を支えており、障害者雇用、高齢者のシルバー人材雇用等に取り組んでいる。是非基本計画に「経済」のテーマを入れて欲しい。

(2) 平成30年度の実績及び令和元年度の実績予定について

- ・ 事務局から説明

(3) 左京区まちづくり活動支援交付金について

- ・ 事務局から説明

4 閉会

以上